

令和2年度用 わくわく算数2 単元別学習内容一覧

本資料は、令和2年度用教科書「わくわく算数2」に基づいて、学校での授業と、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。なお、答え合わせについては、児童の実態に合わせて、学校の授業以外の場で児童自らが行うことや、学校の授業で短時間でやることなどが考えられます。

平時に授業で行うことを想定していた学習活動のうち、学校の授業以外の場(**授業外**)で取り組むこととしている学習活動には**黄色のアミ**をつけています。

●一覧表の見方

| 11 かけ算(2) | | | | 指導時数・時期 | |
|--|----|-------|---|---|--|
| 目 標 | | | | 指導時数・時期 | |
| ○ かけ算九九について、アレイ図を使った活動を通して6~9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 13時間 (授業内 12時間) 2学期制：11月中旬~11月下旬 3学期制：11月上旬~11月下旬 | |
| (知) ・アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。 | | | | | |
| (思) ・アレイ図をもとに、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。 | | | | | |
| (態) ・かけ算や九九のよさがわかり、進んで用いようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「かけ算(1)」 | ・p.122の「⑩じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 26 | ○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。(第1時) | ・かけ算の式をアレイ図に表すことによる学習の動機づけ | |
| 九九づくり | 2 | 27~28 | ○6の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第1時) ○6の段の九九を用いて、適用題を解く。(第2時) | ・6の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 3 | 29~30 | ○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第3時) | ・7の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 4 | | ○7の段の九九を用いて、適用題を解く。(第4時) | | |
| | 5 | 31~33 | ○これまでの学習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第5時) | ・8の段、9の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | ・予習として、p.31の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1に取り組む。 |
| | 6 | | ○8の段の九九を用いて、適用題を解く。(第6時) | | |
| | 7 | | ○9の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時) | | |
| | 8 | 34 | ○基準量が1のときのかけ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。 | ・乗数が1のかけ算 ・1の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 9 | 35 | ○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。 | ・かけ算の問題づくり | |
| ●れんしゅう | 10 | 36 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ②かけ算をつかったもんだい | 11 | 37 | ○乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた3要素2段階の問題を解く。 | ・乗法と加法、減法の組み合わせた問題 | |
| ③図やしきを つかっ て | 12 | 38~39 | ○同じ数のまわりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。 | ・L字型に並んだ●の数を求める問題 | |
| 学びのまとめ | 13 | 40~41 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

13時間 (授業内 12時間)
↓
平時の頃の授業時数
↓
授業外で取り組む学習活動を除いた場合の時数

予習や復習として、授業外で取り組むことができる学習活動の例
※は指導上の留意点

黄色のアミ
平時に授業内で扱うことを想定した学習活動のうち、授業外で取り組むことができる学習活動の例

●年間配当時数

| | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 | 年間 |
|---------------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|
| 平時の頃の時数 | 60 (予備時数 5) | 60 (予備時数 10) | 36 (予備時数 4) | 156 (予備時数 19) |
| 授業外(黄色のアミ)を除いた場合の時数 | 53 (予備時数 12) | 54 (予備時数 16) | 31 (予備時数 9) | 138 (予備時数 37) |

第2学年 単元別学習内容一覧

2年上巻

| ◎ わくわく算数学しゅう | | | | | |
|---|---|-----|--|-----------------------------------|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ (何十何)±(何)の暗算について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して2位数の加減計算についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。 | | | | | 1時間 (授業内1時間) 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬 |
| (知)・算数学習を進める手順や、ことばや図や式などを用いて考え、説明する仕方を知る。また、話し合いのよさなどを理解し、それらに必要な事柄を取り上げることができる。 | | | | | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| (思)・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりすることができる。 | | | | | |
| (態)・学習の進め方に関心を持ち、話しあい活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | |
| | 1 | 6～9 | ○100までの数の(何十何)±(何十)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。 | ・(何十何)±(何十)の暗算 ・学習の進め方、ノートのかき方 | |

| 1 ひょうと グラフ | | | | | |
|---|---|-------|---|------------------------------------|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ 身のまわりの数量について、表やグラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考えたり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 3時間 (授業内3時間) 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬 |
| (知)・身のまわりの事柄について、簡単な分類・整理の仕方を理解し、表やグラフに表したり、それをよんだりすることができる。 | | | | | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| (思)・身のまわりの事柄について、表やグラフを用いてその特徴を考えることができる。 | | | | | |
| (態)・表やグラフのよさがわかり、表やグラフを通じて身のまわりの事柄の特徴を捉え表そうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | |
| じゅんぴ | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「かずしらべ」 | ・p.122の「①じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 課題設定 | 1 | 10～12 | ○好きな遊びの調べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 | ・好きな遊び調べによる学習の動機づけ ・分類・整理の仕方の考察 | |
| | 2 | 13 | ○表や●グラフについて知る。 ○表や●グラフを用いて、分類・整理したり、そこから事柄の特徴を考えたりすることができる。 | ・表と●グラフのつくり方、よみ方 《ひょう、グラフ》 | |
| | 3 | 14～15 | ○調べたい観点を決めて、表や●グラフに整理することができる。 ○データが同じでも観点が違えば、表や●グラフからわかることが違うことに気づくことができる。 | ・データ整理の観点到着目して、表やグラフを用いて特徴を考察すること | |

| 2 時こくと 時間 | | | | | |
|--|---|-----|----------------|--------------|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ 時刻や時間について、その意味の違いを理解し、時計を操作する活動を通して時間を求めたり午前・午後を用いて適切に時刻を表現したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 4時間 (授業内4時間) 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬 |
| (知)・時刻と時間のちがいを、午前と午後との区別や正午の意味、日・時・分の関係がわかり、時計の針の動きをもとに、時刻や時間を求めることができる。 | | | | | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| (思)・日常生活と関連づけて、時刻や時間について調べたり、午前や午後といった用語を適切に用いて表現したりすることができる。 | | | | | |
| (態)・1日の生活時間に関心を持ち、いろいろな時刻や時間について進んで調べようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | |
| じゅんぴ | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「なんじなんぶん」 | ・p.122の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| | | | | | |
|--------|---|-------------|---|--|--|
| 課題設定 | 1 | 16～17 18 | ○1日の生活場面の時間を調べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○時計の針の動きから簡単な時刻と時間を求めることができる。 | ・1日の生活時間による学習の動機づけ ・時刻と時間の意味、簡単な場合の時間の調べ方 《時、分、時こく、時間》 | |
| | 2 | 19 | ○1時間が60分であることを知り、簡単な時間や時刻を求めることができる。 | ・1時間=60分、1時間をこえる時間の調べ方 | |
| | 3 | 20～21 | ○午前・午後の区別と正午の意味や1日は24時間であることを知り、午前・午後を使って時刻を表すことができる。 | ・午前と午後の区別、正午、1日=24時間 《午前、午後、正午》 | |
| 学びのまとめ | 4 | 22～23 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

| 3 たし算とひき算 | | | | | |
|--|---|----------|--|--|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ 2位数の加減計算について、(2位数)±(1位数)の暗算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、簡単な加減計算を暗算でできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 5時間 (授業内5時間) 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬 |
| (知) ・(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を理解し、その計算を暗算ですることができる。 (思) ・既習の1位数の基本的なたし算やひき算をもとに、簡単なたし算とひき算の計算のしかたを考え、説明することができる。 (態) ・簡単なたし算とひき算を暗算で計算するよさに気づき、(2位数)±(1位数)を暗算でしようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 123 | ○既習事項の理解を確認する。 | ・1年「たしざん」「ひきざん」「10より大きいかず」 | ・p.123の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 課題設定 1 たし算 | 1 | 24 25 | ○既習の17+2をもとに17+3と式に表して単元の課題をつかむ。 ○暗算の仕方を考え、(何十)+(何)で和が何十になる暗算ができる。 | ・既習の(1位数)+(1位数)によるたし算の暗算への動機づけ ・(2位数)+(1位数)で(何十)になる暗算 | |
| | 2 | 26～27 | ○数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。 | ・(2位数)+(1位数)で繰り上がりのある暗算 | |
| 課題設定 2 ひき算 | 3 | 28 29 | ○既習の19-8をもとに20-8と式に表して単元の課題をつかむ。 ○暗算の仕方を考え、(何十)-(何)で差が何十何になる暗算ができる。 | ・既習の(2位数)-(1位数)によるひき算の暗算への動機づけ ・(何十)-(1位数)の暗算 | |
| | 4 | 30～31 | ○数のまとまりに着目して、(何十)-(何)で繰り下がって何十何になる暗算ができる。 | ・(2位数)-(1位数)で繰り下がりのある暗算 | |
| 学びのまとめ | 5 | 32～33 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

| 4 長 さ | | | | | |
|--|---|-----|-------------------------------------|--|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ ものの長さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してものさしで長さを測ることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 9時間 (授業内9時間) 2学期制：5月上旬～5月中旬 3学期制：5月上旬～5月中旬 |
| (知) ・ものさしのしくみや使い方、長さの単位「cm」「mm」のよみ方やかき方、単位の関係を理解し、長さ「cm」「mm」の単位を用いて表すことができる。また、ものさしを使って、長さを測定したり直線をかいたりすることができる。 (思) ・長さの普遍単位の必要性に気づく。また、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。 (態) ・長さとその測定に興味をもち、いろいろなものの長さを調べたり、長さの量感を身近な場面でいかそうとしたりする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 123 | ○既習事項の理解を確認する。 | ・1年「おおきさくらべ」 | ・p.123の「㊹じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 34 | ○長さの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 | ・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ | |
| | | 35 | ○普遍単位の必要性に気づき、1cmのいくつ分で長さを表すことができる。 | ・長さの単位 cm を使った長さの表し方 《cm, センチメートル, たんい》 | |

| | | | | | |
|--------|---|-------|---|--|---|
| | 2 | 36~37 | ○ものさしで長さを正しく測ることができる。 | ・長さの測り方, cm での測定 (ハガキなど) | |
| | 3 | 38 | ○30cm ものさしの目盛りを正しくよむことができる。 ○長さの単位 mm について知り, 1mm のいくつ分で長さを測定することができる。 | ・普遍単位 mm の意味と mm までの測定, 1cm=10mm 《mm, ミリメートル》 | |
| | 4 | 39 | ○直線の長さを測ることを通して, cm と mm の単位の関係の理解を深める。 | ・cm と mm の相互の関係 《直線》 | |
| | 5 | 40~41 | ○ものさしを使った直線のかき方を理解し, 示された長さの直線をかくことができる。 | ・ものさしを使った直線の作図 | |
| | 6 | 42 | ○10cm の長さをテープなどでついたり身のまわりから見つけたりして, 10cm の量感を身につけることができる。 | ・10cm の長さづくり (量感), 10cm の長ささがし | ※p.42 の問題 3 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| | 7 | 43 | ○10cm の量感をもとにして, 身のまわりの 10cm をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。 | ・身のまわりの長さの見当づけと測定 | |
| | 8 | 44~45 | ○簡単な長さのたし算やひき算の計算ができる。 | ・長さの加減計算 | |
| 学びのまとめ | 9 | 46~47 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり, 活用問題 | |

5 たし算と ひき算の ひっ算(1)

| 目 標 | | | | 指導時数・時期 | |
|--|---|-------|--|--|--|
| ○ 2 位数の加減計算について, (2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方や答えの確かめ方を考えたり説明したりすることを通して, 計算の理解を深め, 繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに, 生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 11 時間 (授業内 9 時間) 2 学期制: 5 月下旬~6 月上旬 3 学期制: 5 月下旬~6 月上旬 | |
| (知) ・筆算の仕方を理解し, (2 位数)±(2 位数)の筆算を, 一の位から順に, 繰り上がりや繰り下がりに気をつけて, 手際よく計算することができる。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解することができる。 (思) ・十進位取り記数法の仕組みをもとに, (2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考え, 説明することができる。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を使って, 計算結果を確かめることができる。 (態) ・答えの見当づけや筆算の仕方のよさに気づき, 進んで取り組もうとする。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を, 計算結果の確かめにかかそうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「100 までのかずのけいさん」 「大きいかず」 | ・p.124 の「⑤じゅんぴ」に取り組み, QR コンテンツや p.140 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば, 個別に支援する。 |
| (課題設定) ①たし算 | 1 | 48 | ○(2 位数)+(2 位数)で繰り上がりのないたし算を筆算で計算する。 ○筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 | ・計算棒を縦に並べる操作による筆算の動機づけ ・(2 位数)+(2 位数)で繰り上がりのない筆算 《ひっ算》 | |
| | | 49~50 | | | |
| | 2 | 51 | ○(2 位数)+(2 位数)で一の位に繰り上がりのある筆算ができる。 | ・(2 位数)+(2 位数)で一の位が繰り上がる筆算 | |
| | 3 | 52 | ○(2 位数)+(何十)の場合や繰り上がって一の位が空位になる場合, 桁数のそろっていない場合の筆算ができる。 | ・19+80, 57+13, 43+5, 6+27 などの筆算 | |
| | 4 | 53 | ○たし算について, 交換法則が成り立つことを知る。 ○交換法則を使って, たし算の答えを確かめることができる。 | ・加法の交換法則とそれを用いた答えの確かめ 《たされる数, たす数》 | |
| ●れんしゅう | 5 | 54 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば, 個別に支援する。 |
| ②ひき算 | 6 | 55 | ○(2 位数)-(2 位数)で繰り下がりのない場合の筆算ができる。 | ・(2 位数)-(2 位数)で繰り下がりのない筆算 | |
| | 7 | 56 | ○(2 位数)-(2 位数)で繰り下がりのある場合の筆算ができる。 | ・(2 位数)-(2 位数)で十の位が繰り下がる筆算 | |
| | 8 | 57 | ○(2 位数)-(2 位数)で繰り下がって答が 1 桁になる場合や(2 位数)-(1 位数)の筆算ができる。 | ・26-21, 35-27, 73-5 などの筆算 | |

| | | | | | |
|--------|----|-------|---|--------------------------------------|--|
| | 9 | 58 | ○ひき算の答えにひく数をたすとひかれる数になることがわかる。 ○たし算を使って、ひき算の答えを確かめることができる。 | ・加減の相互関係とそれを用いた答えの確かめ 《ひかれる数、ひく数》 | |
| ●れんしゅう | 10 | 59 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 学びのまとめ | 11 | 60～61 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|-------------|------|--|
| * ふくしゅう | | | | | 指導時数・時期 |
| | | | | | 1 時間 (授業内 0 時間) 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 62～63 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| | | | | | |
|--|---|-------|---|----------------------------------|---|
| 思 図 を つか っ て 考 え よ う (1) | | | | | |
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ 文章題において、テープ図のかき方を理解し、問題場面を図に表して数量の関係に着目して解法を考えることを通して、たし算やひき算になる場面の理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 6 時間 (授業内 6 時間) 2 学期制：6 月中旬 3 学期制：6 月上旬～6 月中旬 |
| (知) ・加法や減法の用いられる場について理解し、数量の関係を線分図(テープ図)に表すことができる。 (思) ・逆思考を必要とする問題について、数量の関係を線分図(テープ図)に表して考えることができる。 (態) ・線分図(テープ図)のよさに気づき、問題解決の際に進んで図を用いようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 64～65 | ○テープ図の見方・かき方を理解し、表すことができる。 ○テープ図をもとにして、合併や求残の問題を解くことができる。 | ・加減の問題のテープ図のかき方 | |
| | 2 | 66～67 | ○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解くことができる。 | ・増加の逆思考の問題 ($a + \square = b$) | |
| | 3 | 68～69 | ○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○減った数を求める逆思考の問題をテープ図をもとに考え、解くことができる。 | ・求残の逆思考の問題 ($a - \square = b$) | |
| | 4 | 70 | ○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○増える前の数を求める逆思考の問題を、テープ図をもとにして考え、解くことができる。 | ・増加の逆思考の問題 ($\square + a = b$) | |
| | 5 | 71 | ○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○減る前の数を求める逆思考の問題を、テープ図にかいて考え、解くことができる。 | ・求残の逆思考の問題 ($\square - a = b$) | |
| | 6 | 72～73 | ○算数の問題をつくり、その問題文にあり図や式を考えることができる。 | ・文章、図、式の相互理解 | |

6 100 を こえる 数

| 目 標 | | 指導時数・時期 | | | |
|--|----|--|---|---|--|
| ○ 100 をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、10 や 100 を単位として数をとらえたり順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | 11 時間 (授業内 9 時間) 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月中旬～7 月上旬 | | | |
| (知) ・1000 までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、1000 までの数を表したりよんだりできる。また、1000 までの数の大小を比べることができる。 (思) ・1000 までの数について、100 までの数と同じように、10 や 100 などを単位としてそのいくつか分とみて表現したり、加減計算の仕方を考えたりすることができる。 (態) ・1000 までの数について、数え方を工夫しようしたり、十進位取り記数法のよさに気づいていかそうしたりする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「大きいかず」 | ・p.124 の「⑥じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.140 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 74～75 | ○100 をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 | ・10 ずつまとめて数える操作による学習の動機づけ ・100 をこえる数のよみ方 | |
| ①100 を こえる 数 | | 76 | ○10 や 100 のまとまりに着目して、100 をこえる数の数え方やよみ方を理解する。 | | |
| | 2 | 77 | ○3 位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・1000 未満の数の表し方 (空位のない場合) 《百のくらい》 | |
| | 3 | 78 | ○空位のある 3 位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・1000 未満の数の表し方 (空位のある場合) 《3 けたの数》 | |
| | 4 | 79 | ○10 を単位として、そのいくつか分になるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。 | ・10 を単位とする数の相対的な見方 | |
| | 5 | 80 | ○100 のまとまりをつくって数える操作を通して、1000 という数を知り、1000 という数の構成や数の系列をとらえることができる。 | ・1000 という数の意味、構成 《1000, 千》 | ※p.80 で「千」を導入した後、例えば「めあて」を「千と千までの数についてしらべよう。」とすれば、これまでに学習した数も含めた考察を無理なく行うことが可能なため、p.80～81 の内容を「まとめて 1 時間」で扱う。ただし、児童の理解の進み具合には配慮する。(授業内 1 時間) |
| | 6 | 81 | ○数直線の見盛りの大きさに着目し、1000 までの数の系列や順序を理解することができる。 | ・数直線、1000 までの数の系列 | |
| | 7 | 82 | ○十進位取り記数法の仕組みをもとに考え、3 位数の大小を比較することができる。 | ・数の大小比較 《<, >》 | ※p.82 の問題 3 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| ●れんしゅう | 8 | 83 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ②たし算と ひき算 | 9 | 84 | ○10 を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何十)+(何十)で答えが(何百十)のたし算やその逆のひき算ができる。 | ・10 を単位とする簡単なたし算とひき算 | |
| | 10 | 85 | ○100 を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何百)+(何百)≤1000 やその逆のひき算ができる。 | ・100 を単位とする簡単なたし算とひき算 | |
| 学びの まとめ | 11 | 86～87 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

7 か さ

| 目 標 | | 指導時数・時期 | |
|---|--|---|--|
| ○ もののかさについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してますでかさをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | 6 時間 (授業内 6 時間) 2 学期制：7 月上旬～7 月中旬 3 学期制：7 月上旬～7 月中旬 | |
| (知) ・ますの使い方や、かさの単位「L」、「dL」、「mL」のよみ方・かき方・相互関係がわかる。 ・かさを「L」、「dL」、「mL」の単位を用いて表したり、ますを使ってかさを測定したりすることができる。 (思) ・かさの普遍単位の必要性がわかり、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。 (態) ・かさの測定に興味を持ち、適切な大きさのますを使っているいろいろなもののかさを調べたり、身のまわりの入れものの容積表示を進んでみつけたり、身近な場面でいかそうとする。 | | | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|--------|---|----------|--|---|--|
| じゅんぴ | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「おおきさくらべ」 | ・p.125の「⑦じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 88 89 | ○かさの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○普遍単位の必要性に気づき、1Lますを使ってかさをはかり、1Lのいくつ分でかさを表すことができる。 | ・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ ・かさの単位Lを使ったかさの表し方、1Lますを使った測定 《L, リットル》 | |
| | 2 | 90 | ○かさの単位dLについて知り、1dLのいくつ分でかさを表すことができる。 ○LとdLの関係を理解する。 | ・dLの意味とdLまでの測定、1L=10dL、LとdLの複名数の適用題 《dL, デシリットル》 | |
| | 3 | 91 | ○単位mLを知り、mLとdL、mLとLの関係を理解する。 | ・mLの意味とmLまでの測定、1dL=100mL、1L=1000mL 《mL, ミリリットル》 | |
| | 4 | 92 | ○1Lのかさをいろいろなものに水を入れてつくり、1Lの量感を身につけることができる。 ○1Lの量感をもとにして、身のまわりのいれもののかさを見当づけたり測ったりする。 | ・1Lのかさづくり(量感)、身のまわりのかさの見当づけと測定 | |
| | 5 | 93 | ○簡単なかさのたし算やひき算の計算ができる。 | ・かさの加減計算、単位換算 | |
| 学びのまとめ | 6 | 94~95 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

| 活 わくわく算数ひろば | | | | | 指導時数・時期 |
|-----------------|---|-------|---|-------------------------------|--|
| | | | | | 2時間(授業内1時間) 2学期制:7月中旬~7月下旬 3学期制:7月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| ●どんな計算になるのかな(1) | 1 | 96~97 | ○根拠にもとづいて、たし算やひき算の演算決定をすることができる。 | ・加減の演算決定 | ・予習として、p.96の内容を確認して、これまでの学習をもとにp.97の問題に取り組む。(授業内0.5時間) |
| ●算数のじゅうけんきゅう | 2 | 98~99 | ○「線路づくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。 | ・線路カードを使った線路づくり(閉路や1周することの意味) | ・いろいろな線路をつくる活動は授業外で取り組む。(授業内0.5時間) |

| * ふくしゅう | | | | | 指導時数・時期 |
|---------|---|---------|-------------|------|--|
| | | | | | 1時間(授業内0時間) 2学期制:7月下旬 3学期制:7月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 100~101 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 8 たし算とひき算のひっ算(2) | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○3位数の加減計算について、(3位数)±(2位数)の筆算を考えたり説明したりすることを通して、計算や十進位取り記数法の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 10時間(授業内8時間) 2学期制:9月上旬~9月下旬 3学期制:9月上旬~9月下旬 |
| (知) | ・繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。また、繰り上がりや繰り下がりの操作を通して、十進位取り記数法についての理解を深められる。 | | | | |
| (思) | ・既習の2位数の筆算をもとにして、百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算や、簡単な場合の(3位数)±(2位数)の筆算の仕方を考えることができる。 | | | | |
| (態) | ・既習の2位数の筆算をもとに、進んで考えようとする。また、筆算の仕方やそのよさがわかり、進んで活用しようとする。 | | | | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|------------|----|---------|---|---------------------------------|--|
| じゅんぴ | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「たし算とひき算のひっ算(1)」 | ・p.125の「⑧じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.140の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 102 | ○答えが3桁になるたし算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(2位数)+(2位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。 | ・答えが100をこえる筆算の動機づけ | |
| ①たし算 | | 103 | | ・(2位数)+(2位数)で十の位が繰り上がる筆算 | |
| | 2 | 104 | | ・(2位数)+(2位数)で十の位が繰り上がる筆算 | |
| | 3 | 105 | ○3口のたし算を筆算形式に表し、計算することができる。 | ・3口のたし算 | |
| ●れんしゅう | 4 | 106 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ②ひき算 | 5 | 107 | ○(百何十何)-(2位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。 | ・(百何十何)-(2位数)で百の位が繰り下がる筆算 | |
| | 6 | 108 | ○(百何十何)-(2位数)で繰り下がりが2回の筆算ができる。 | ・(百何十何)-(2位数)で十と百の位が繰り下がる筆算 | |
| | 7 | 109 | ○(百何)-(2位数)で繰り下がりが2桁におよぶ筆算ができる。 | ・(百何)-(2位数)で一の位の計算で百の位から繰り下げる筆算 | |
| ●れんしゅう | 8 | 110 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ③3けたの数のひっ算 | 9 | 111 | ○(3位数)+(2位数)で、百の位に繰り上がらない筆算ができる。 ○(3位数)-(2位数)で、百の位から繰り下がらない筆算ができる。 | ・(3位数)±(2位数)の簡単な筆算 | |
| 学びのまとめ | 10 | 112～113 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

思 図 を つか っ て 考 え よ う (2)

| 目 標 | | | | 指導時数・時期 | |
|---|---|---------|---|--|----------------------------|
| ○ 文章題において、問題場面を図に表して数量の増減に着目して解法を考えることを通して、まとめて考える考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 3時間 (授業内3時間) 2学期制：9月下旬 3学期制：9月下旬 | |
| (知)・増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。 | | | | | |
| (思)・増減する数量に着目し、数図ブロックを操作したり、図に表したりして、まとめて考えることができる。 | | | | | |
| (態)・増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、これを活用しようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 114～115 | ○増増の場面の問題を、順に考えて解く方法と、増える数に着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。 | ・増増の場合について、順に考えたりまとめて考えたりする問題 | |
| | 2 | 116 | ○減減の場面や増増の問題をオペレータに着目して、まとめて考える考え方で解くことができる。 | ・増増、減減の場合について、まとめて考える問題 | |
| | 3 | 117 | ○増減の場面の問題を、オペレータに着目して差し引きいくらか増えたことになるかを考えて解くことができる。 | ・増減の場合について、まとめて考える問題 | |

9 しきと 計算

| 目 標 | | | | 指導時数・時期 |
|---|--|--|--|--|
| ○ 式について、()の意味を理解し、()を使って1つの式に表したり等号や不等号で大小関係を式に表したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 2時間 (授業内2時間) 2学期制：10月上旬 3学期制：10月上旬 |
| (知)・加法の結合法則の計算のきまりや()を使った式の計算順序を理解し、()を使った式の計算ができる。また、等号や不等号の使い方を理解することができる。 | | | | |
| (思)・()を用いて1つの式に表したり、等号や不等号を用いて大小関係を式に表したりすることができる。 | | | | |
| (態)・()や不等号などを用いると、考え方や数量の関係を簡潔に式に表せることに気づき、()や不等号などを用いて式に表そうとする。 | | | | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|-----|---|---------|--|----------------------------|----------------------------|
| | 1 | 118～119 | ○増増の場面をもとに、加法の結合 法則が成り立つことに気づき、() を使った式の計算順序がわかる。 | ・加法の結合法則、() の使い方 《()》 | |
| | 2 | 120 | ○数量の相等関係や大小関係を、等 号や不等号を使って式に表すこと ができる。 | ・等号・不等号を使った式、等号の意 味理解 | |

★ 学びの サポート

| ページ | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|---------|------------|--|
| 122～125 | ・じゅんび | ・単元前の「じゅんび」に取り組み、 QR コンテンツや p.140 の解答を 参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、 個別に支援する。 |
| 126～135 | ・もっと れんしゅう | ・本時の補充として「もっと練習」に 取り組み、p.140～141の解答を参 照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、 個別に支援する。 |
| 136～148 | ・算数しりょうしゅう | ※授業内・外問わず、必要に応じて適 宜確認させる。 |

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

| 10 かけ算(1) | | | | | |
|---|----|-------|--|-----------------------------------|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ かけ算九九について、その意味や式について理解し、ブロックを操作する活動を通してかけ算になる場面をとらえて式にかいたり、かける数が1増えたときの積の増え方に着目して2～5の段の九九を構成したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 16時間 (授業内 15時間) 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月上旬～10月下旬 |
| (知) ・かけ算の意味を知り、1つ分の大きさのいくつ分を求めるときにかけ算を用いればよいことが理解できる。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。 | | | | | |
| (思) ・ブロック操作をもとに、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。 | | | | | |
| (態) ・累加の簡潔な表現としてのかけ算のよさに気づき、身のまわりからかけ算で表される数量の場面をみつげようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「おなじかずずつ」 | ・p.122の「@じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 2 | ○具体的な操作を通して、基準量の「いくつ分」という見方について理解する。 | ・乗り物に乗っている人数を調べることによる、かけ算の学習の動機づけ | |
| ①いくつ分と かけ算 | | 3～5 | ○何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。 | ・何個のいくつ分で表すこと | |
| | 2 | 6～7 | ○基準量のいくつ分という見方を働かせて、かけ算の意味を理解し、式に表すことができる。 | ・かけ算の意味と式、累加による答えの求め方 《×、かけ算》 | |
| | 3 | 8～9 | ○かけ算の用いられる場面を式に表し、その答えを累加で求めることができる。 ○身のまわりから、かけ算の式に表せる場面をみつける。 | ・かけ算が適用できる場面の理解 ・身のまわりのかけ算さがし | ※p.9の問題7の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| ②何ばいと かけ算 | 4 | 10～11 | ○基準量のいくつ分という見方をもとに何倍の意味を理解し、かけ算の用いられる場面について理解を深める。 | ・倍の意味とその見方、2倍や3倍、1倍 《ばい》 | |
| ③かけ算の 九九 | 5 | 12～13 | ○乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って、5の段の九九を構成することができる。 | ・5の段の九九の構成 《かけられる数、かける数、九九》 | |
| | 6 | 14 | ○5の段の九九の唱え方を知り、九九のカードをつくるなどして九九を練習する。(第6時) | ・5の段の唱え方、練習と適用題 | |
| | 7 | | ○5の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時) | | |
| | 8 | 15～16 | ○2の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第8時) | ・2の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 9 | | ○2の段の九九を用いて、適用題を解く。(第9時) | | |
| | 10 | 17～18 | ○3の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第10時) | ・3の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 11 | | ○3の段の九九を用いて、適用題を解く。(第11時) | | |
| | 12 | 19～20 | ○4の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第12時) | ・4の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 13 | | ○4の段の九九を用いて、適用題を解く。(第13時) | | |
| | 14 | 21 | ○基準量が後に示された問題を、かけ算の式に表して九九を使って解決する。 | ・基準量が後に示されたかけ算の問題 | |
| ●れんしゅう | 15 | 22 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 学びの まとめ | 16 | 23 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

| * ふくしゅう | | | | | 指導時数・時期 |
|-------------|---|-------|-------------|------|---|
| | | | | | 1時間 (授業内 0時間) |
| 2学期制: 11月上旬 | | | | | |
| 3学期制: 11月上旬 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 24~25 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 11 かけ算(2) | | | | | |
|--|-----------------------|-------------|--|---|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ かけ算九九について、アレイ図を使った活動を通して6~9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 13時間 (授業内 12時間) |
| (知) ・アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。 | | | | | 2学期制: 11月中旬~11月下旬 3学期制: 11月上旬~11月下旬 |
| (思) ・アレイ図をもとに、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。 | | | | | |
| (態) ・かけ算や九九のよさがわかり、進んで用いようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「かけ算(1)」 | ・p.122の「㊤じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) 九九づくり | 1 ・ 2 | 26 27~28 | ○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。(第1時) ○6の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第1時) ○6の段の九九を用いて、適用題を解く。(第2時) | ・かけ算の式をアレイ図に表すことによる学習の動機づけ ・6の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | ・予習として、p.31の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1に取り組む。 |
| | 3 ・ 4 | 29~30 | ○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第3時) ○7の段の九九を用いて、適用題を解く。(第4時) | ・7の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 5 ・ 6 ・ 7 | 31~33 | ○これまでの学習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第5時) ○8の段の九九を用いて、適用題を解く。(第6時) ○9の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時) | ・8の段、9の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 8 | 34 | ○基準量が1のときのかけ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。 | ・乗数が1のかけ算 ・1の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題 | |
| | 9 | 35 | ○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。 | ・かけ算の問題づくり | |
| ●れんしゅう | 10 | 36 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ②かけ算をつかった もんだい | 11 | 37 | ○乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた3要素2段階の問題を解く。 | ・乗法と加法、減法の組み合わせた問題 | |
| ③図やしきを つかって | 12 | 38~39 | ○同じ数のまともりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。 | ・L字型に並んだ●の数を求める問題 | |
| 学びの まとめ | 13 | 40~41 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

12 三角形と 四角形

| 目 標 | | | | 指導時数・時期 | |
|---|----|-------|---|---|---|
| ○ 三角形や四角形について、観察を通してその分類や意味を理解し、構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 10 時間 (授業内 10 時間) 2 学期制：12 月上旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬 | |
| (知) ・三角形、四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味を理解し、これらを弁別することができる。また、点を直線でつないだり、紙をおったり、方眼紙を使ったりして、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。 | | | | | |
| (思) ・三角形、四角形の弁別について、直線の数に着目して考えることができる。また、辺の長さや直角に着目して、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を考えることができる。 | | | | | |
| (態) ・いろいろな三角形や四角形をつくり、身のまわりから見つけたりしようとする。また、興味をもって、長方形、正方形、直角三角形を敷き詰める活動に取り組み、平面の広がりを感じる。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「いろいろなかたち」 | ・p.123の「㊤じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.134 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 42～44 | ○動物を直線で囲む操作を通して、三角形と四角形の意味を知る。 ○三角形と四角形について調べていくという単元の課題をつかむ。 | ・点をつなぐ形づくりによる学習の動機づけ ・三角形と四角形の定義、点構成、線構成 《三角形、四角形》 | |
| ①三角形と 四角形 | 2 | 45 | ○三角形と四角形の弁別を行い、それらの構成要素について調べる。 | ・三角形と四角形の弁別、構成要素 《辺、ちょう点》 | |
| | 3 | 46～47 | ○三角形や四角形の紙を2つに切って三角形や四角形をつくり、三角形や四角形についての理解を深める。 ○身のまわりから、三角形や四角形の形をしたものをみつける。 | ・三角形と四角形の面構成(紙を切る) ・身のまわりの三角形や四角形 | ※p.47の問題5の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| ②長方形と 正方形 | 4 | 48 | ○かどの形づくりを通して、直角の意味を知り、身のまわりから直角を見つける。 | ・直角づくりとその定義、直角さがし 《直角》 | ※p.48の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| | 5 | 49 | ○紙を折ることによる長方形の形づくりを通して、長方形について理解する。 | ・長方形づくり、長方形の定義や性質 《長方形》 | |
| | 6 | 50～51 | ○長方形の紙を切ることによる正方形の形づくりを通して、正方形について理解する。 | ・正方形づくり、正方形の定義や性質 《正方形》 | ※p.51の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| | 7 | 52 | ○長方形や正方形の紙を斜めに切ることによる直角三角形の形づくりを通して、直角三角形について理解する。 | ・直角三角形づくり、直角三角形の定義と弁別 《直角三角形》 | |
| | 8 | 53 | ○方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。 | ・方眼紙を使った長方形、正方形、直角三角形の作図 | |
| | 9 | 54～55 | ○色紙を並べて長方形、正方形、直角三角形をつくり、その図形になるわけを説明することができる。 ○長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて、模様をつくり、いろいろな図形をみつけることができる。 | ・形づくりと平面の敷き詰め | |
| 学びのまとめ | 10 | 56～57 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

| 思 図を つかって 考えよう(3) | | | | | |
|--|---|-------|---|------------|---|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ 文章題において、問題場面を図に表して数量の違いに着目して解法を考えることを通して、違いをみて考える考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 2時間 (授業内 2時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬 |
| (知) ・2つの数量の違いを比べやすいように、左側をそろえて2本のテープ図に表すことができる。 | | | | | |
| (思) ・2つの数量の違いに着目して、一方の数量が多いということは他方の数量が少ないことであるというように考え、問題を解決することができる。 | | | | | |
| (態) ・2つの数量の違いを図に表して考えるよさに気づき、進んで図を使って問題を解こうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 58～59 | ○2本のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が多いということは他方が差の分だけ少ないと考えて、問題を解くことができる。 | ・求大の逆思考の問題 | |
| | 2 | 60～61 | ○2本のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が少ないということは、他方が差の分だけ多いと考えて、問題を解くことができる。 | ・求小の逆思考の問題 | |

| 活 わくわく算数ひろば | | | | | 指導時数・時期 |
|-----------------|---|-------|--|----------|---|
| | | | | | 2時間 (授業内 2時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| ●どんな計算になるのかな(2) | 1 | 62～63 | ○根拠にもとづいて、かけ算の演算決定をすることができる。 | ・乗法の演算決定 | |
| ●買えますか？買えませんか？ | 2 | 64～65 | ○1つ100円で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。 | ・見積りの素地 | |

| * ふくしゅう | | | | | 指導時数・時期 |
|---------|---|-------|-------------|------|---|
| | | | | | 1時間 (授業内 0時間) 2学期制：1月中旬 3学期制：12月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 66～68 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 13 九九の きまり | | | | | |
|--|---|-----|---|---------------------|--|
| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○ かけ算九九について、九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して、乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 8時間 (授業内 8時間) 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬 |
| (知) ・九九の表を使って、同じ答えのかけ算をみつけたり、乗法に関して成り立つ性質を理解したりすることができる。 | | | | | |
| (思) ・九九の表の考察を通して、いろいろなきまりを見つけることができる。また、簡単な2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えることができる。 | | | | | |
| (態) ・九九の表やかけ算のきまりに関心をもち、進んできまりを見つけたり、活用したりしようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんび | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「かけ算(1)」「かけ算(2)」 | ・p.123の「㊸じゅんび」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 71 | ○九九の表を完成させ、九九のきまりについて調べるといった単元の課題をつかむ。 ○九九の表の見方がわかる。 | ・九九の表づくりによる学習の動機づけ | |
| ①九九のひょうときまり | 2 | 72 | ○九九の表を使って、乗数と積の関係について調べる。 | ・乗数が1増えたときの積の増え方 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|---|--------------------------|--|
| | 3 | 73 | ○九九の表を使って、乗法の交換法則について調べる。 | ・乗法の交換法則 | |
| | 4 | 74 | ○九九の表を使って、同じ答えがいくつあるかを調べる。 | ・同じ答えになるかけ算さがし | |
| | 5 | 75 | ○九九の表を使って、2つの段の答えの和や差について調べる。 | ・九九の2つの段の答えの和や差(分配法則の素地) | |
| ②九九を広げて | 6 | 76 | ○簡単な(1位数)×(2位数)について、乗数と積の関係を使って答えを求めることができる。 | ・簡単な(1位数)×(2位数)の答えのみつけ方 | |
| | 7 | 77 | ○簡単な(2位数)×(1位数)について、同数累加の考えや交換法則などを使って答えを求めることができる。 | ・簡単な(2位数)×(1位数)の答えのみつけ方 | |
| 学びのまとめ | 8 | 78～79 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

14 100cmをこえる長さ

| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
|---|---|-------|--|-------------------------------------|--|
| ○ 100cmをこえる長さについて、新たな普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して1m以上の長さのものはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 6時間 (授業内6時間) 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬 |
| (知) ・長さの単位「m」を知り、「m」と「cm」の単位の関係を理解することができる。また、1mのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。 (思) ・大きな長さの単位の必要性に気づき、1mをこえる長さを表すのに適切な単位を判断することができる。 (態) ・身のまわりの1mをこえるものの長さを、見当をつけてから測ろうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「長さ」 | ・p.124の「@じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 80～81 | ○両手を広げた長さを測り、100cmをこえる長さの別の表し方を調べるといふ単元の課題をつかむ。 | ・両手を広げた長さを調べることによる学習の動機づけ | |
| | 2 | 82 | ○長さの単位mについて知り、m単位を使って長さを表すことができる。 | ・mの意味と1mをこえる測定、1m=100cm 《m,メートル》 | |
| | 3 | 83 | ○1mの長さをテープなどでついたり身のまわりから見つけたりして、1mの量感を身につけることができる。 | ・1mの長さづくり(量感)、1mの長ささがし | ※p.83の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 |
| | 4 | 84 | ○1mの量感をもとにして、身のまわりの1mをこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。 | ・身のまわりのものの長さの見当づけと測定 | |
| | 5 | 85 | ○簡単な場合の1mをこえる長さのたし算やひき算の計算ができる。 | ・長さの加減計算 | |
| 学びのまとめ | 6 | 86～87 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり、活用問題 | |

* ふくしゅう

| | | | | | 指導時数・時期 |
|-----|---|-------|-------------|------|--|
| | | | | | 1時間 (授業内0時間) 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 88～89 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

15 1000をこえる数

| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
|---|--|--|--|--|--|
| ○ 1000をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、100や1000を単位として数をとらえたり順序や大小について考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 7時間 (授業内5時間) 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬 |
| (知) ・10000までの数をよんだり表したりすることができる。また、10000までの数のしくみを、十進位取り記数法にもとづいて理解し、10000までの数の大小を比較することができる。 (思) ・既習の1000までの十進位取り記数法のしくみをもとに、10000までの数の表し方やしくみを考えることができる。また、100を単位にして、10000までの数の大きさをとらえることができる。 (態) ・十進位取り記数法のよさに気づき、進んで10000までの数をよんだり表したりしようとする。 | | | | | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|--------|---|----------|--|--------------------------------------|---|
| じゅんぴ | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2年「100をこえる数」 | ・p.124の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 90 91 | ○1000をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 ○100のまとまりを10個集めて1000のまとまりをつくると数えやすいことに気づくとともに、1000をこえる数のよみ方を理解する。 | ・1000をこえる数の学習の動機づけ ・1000をこえる数の数え方 | |
| | 2 | 92 | ○4位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・10000未満の数の表し方 《千の位》 | |
| | 3 | 93 | ○100を単位として、そのいくつ分になるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。 | ・100を単位とする数の相対的な見方 | |
| | 4 | 94 | ○1000のまとまりをつくって数える操作を通して、10000という数の構成や数の系列をとらえることができる。 | ・10000という数の意味、構成 《10000, 一万》 | ※p.94で「一万」を導入した後、例えば「めあて」を「一万という数と一万までの数についてしらべよう。」とすれば、これまでに学習した数も含めた考察を無理なく行うことが可能なため、p.94～95の内容をまとめて1時間で扱う。ただし、児童の理解の進み具合には配慮する。(授業内1時間) |
| | 5 | 95 | ○数直線の目盛りの大きさに着目し、10000までの数の系列や順序、大小関係について理解することができる。 | ・10000までの数の系列、大小比較 | |
| ●れんしゅう | 6 | 96 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | ・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 学びのまとめ | 7 | 97 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

| 16 はこの 形 | | | | | |
|---|---|---------|--|---------------------------------------|--|
| 目 標 | | | | 指導時数・時期 | |
| ○箱の形について、観察を通して構成要素を調べたり、図形を構成したりすることを通して立体図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | 5時間(授業内5時間) 2学期制:2月下旬 3学期制:2月下旬 | |
| (知)・箱の形を構成する要素(面, 辺, 頂点)とそれらの数を知る。また、面と面のつながり方や位置関係をとらえ、工作用紙やひご、粘土玉を使って、箱の形やさいころの形をつくることができる。 | | | | | |
| (思)・箱づくりを通して、箱を構成する要素(面, 辺, 頂点)に着目して、箱の形の特徴を見いだすことができる。 | | | | | |
| (態)・箱の形に関心をもって、箱の形を観察したりつくったりしようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「いろいろなかたち」 ・2年「三角形と四角形」 | ・p.125の「㊹じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 98 | ○いろいろな箱を観察して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。 | ・身のまわりの箱を観察することによる学習の動機づけ | |
| ①はこの形 | | 99～100 | ○面の形を写し取り、箱の面について調べる。 | ・箱の形の面とその数 《面》 | |
| | 2 | 101 | ○箱の辺や頂点について調べる。 | ・箱の形の辺, 頂点とそれらの数 | |
| ②はこづくり | 3 | 102 | ○面をつないで箱を作ることを通して、面の位置関係についての理解を深める。 | ・工作用紙を使った箱づくり(面構成) | |
| | 4 | 103 | ○ひごと粘土玉を使って箱の形をつくることを通して、辺や頂点の位置関係の理解を深める。 | ・ひごと粘土玉を使った箱の形づくり(点構成, 線構成) | |
| 学びのまとめ | 5 | 104～105 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり, 活用問題 | |

17 分 数

| 目 標 | | | | | 指導時数・時期 |
|---|---------|---|---|---|--|
| <p>○ 分数について、半分をつくる活動を通して $1/2$ の意味を理解し、$1/2$ の半分やさらにその半分の大きさを調べたり、もとの大きさと分数で表された大きさの関係を考えたりすることを通して、簡単な場合の分数の意味を理解することができるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> | | | | | 4時間 (授業内 4時間) 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬 |
| (知) ・具体的な操作を通して $1/2$ や $1/4$ の意味を実感的に理解し、その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。 (思) ・半分を2等分、半分の半分を4等分というように考えて、分数の意味をとらえることができる。また、図をもとに考えて、12個の $1/3$ は4個というように表現したり、4個の3倍は12個というようなことに気づいたりすることができる。 (態) ・半分や半分の半分などの大きさの表し方に関心をもち、分数で表そうとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| じゅんぴ | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「おなじかずずつ」 | ・p.125の「㊦じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.134の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定) | 1 | 106 | ○半分の大きさをつくり、その表し方について調べていくという単元の課題をつかむ。 | ・半分にわけることによる学習の動機づけ | |
| | | 107 | ○半分の大きさの作り方を考えることができる。 | ・正方形や長方形、円の紙を折って半分の大きさをつくること | |
| | 2 | 108 | ○テープを折って半分の大きさをつくることを通して、 $1/2$ (二分の一) という表し方とその意味について理解する。 | ・ $1/2$ の定義 《 $1/2$ 》 | |
| | 3 | 109 | ○テープを折って半分の半分の大きさをつくることを通して、 $1/4$ (四分の一) という表し方とその意味について理解する。 ○ $1/8$ について知る。 | ・ $1/4$ の定義、 $1/8$ の定義 《 $1/4$, 分数》 | |
| 4 | 110~111 | ○ $1/3$ について知り、 $1/2$ や $1/3$ の大きさを図に表すことができる。 ○もとの大きさとその $1/2$ や $1/3$ の大きさの関係を調べたり、もとの大きさが違うときの $1/2$ や $1/3$ の大きさを比べたりする。 | ・図を使って $1/2$ や $1/3$ にあたる数を求める問題 | | |

| 活 わくわく算数ひろば | | | | | 指導時数・時期 |
|-------------|---|---------|-------------------------------|-------------|---|
| | | | | | 2時間 (授業内 2時間) 2学期制：3月上旬～3月中旬 3学期制：3月上旬～3月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| ●何番目 | 1 | 112～113 | ○いろいろな順序数の問題を、図にかいて考えることができる。 | ・順序数と集合数の問題 | |
| ●よみとる算数 | 2 | 114～115 | ○日記から必要な情報をよみ取り、いろいろな問題を解決する。 | ・長文などの情報選択 | |

| * もう すぐ 3年生 (2年のふく習) | | | | | 指導時数・時期 |
|----------------------|---|---------|-----------------|------|--|
| | | | | | 3時間 (授業内 1時間) 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬 |
| 小単元 | 時 | ページ | 目 標 | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
| | 1 | 116～117 | ○2年生の学習内容の確認と持続 | ・復習 | ・授業外で取り組む。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間) |
| | 2 | 118～119 | | | |
| | 3 | 120 | | | |

★ 学びの サポート

| ページ | 学習内容 | 授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点 |
|---------|------------|--|
| 122～125 | ・じゅんぴ | <ul style="list-style-type: none"> ・単元前の「じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.134 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 126～133 | ・もっと れんしゅう | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の補充として「もっと練習」に取り組み、p.135 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 134～144 | ・算数しりょうしゅう | <ul style="list-style-type: none"> ※授業内・外問わず、必要に応じて適宜確認させる。 |

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。